

液化室だより

東大物性研究所 <http://www.issp.u-tokyo.ac.jp/labs/cryogenic/>

ここでは起こるはずがない症候群 リスク管理について

高圧ガス保安協会(KHK)が出版している「高圧ガス」Vol.42 No.7(2005)に、リスク管理についておもしろい記事(連載)があった。

この記事によると"ここでは起こるはずがない症候群(It can't happen here syndrome.)"というものがあるそうです。

Mr.D'Angelo (ディアンジェロ氏)が、日本の工場で見聞きした際に感じた、あまり合理的・倫理的ではないと思えるリスクの捉え方をこのように名付けたそうですが、皆さんはこれを聞いてどのように思われるでしょうか?

下記を参考に、もう一度安全管理について考えてみては如何でしょうか?

『ここでは起こるはずがない』と考えているとしか思えない発言集

- ・日本の保安法規は厳しいから・・・
- ・メンテナンスプログラムに自信があるから・・・
- ・国内のベンダーなので信頼できるから・・・
- ・事故の未然防止に万全を期しているから・・・

などなど

『マーフィーの法則』

- ・失敗する可能性があるものは必ず失敗する。
(If anything can go wrong, It will.)
- ・いくつかの方法があって、一つが悲惨な結果に終わる方法である時、人はそれを選ぶ。
- ・起きて欲しくないことほどよく起こる。
- ・もっとも高価な部品が故障する。
- ・危機に臨むと、人は最悪の選択をする。
- ・モーターは、設計とは逆方向に回転する。

皆さんは、"自分のところでは起こるはずがない!"とと思っていませんか?

【引用】「高圧ガス」Vol.42 No.7(2005)

【参考】マーフィーの法則、アーサー・ブロック、アスキー出版、1991

人は一般に、「高圧ガス」は、液化室にあります。興味のある方は液化室まで!

問い合わせ [E-mail:ekika@issp.u-tokyo.ac.jp 内線:63515]



米国で定着している
「マーフィーの法則」